

I 最初に、あなたご自身についておうかがいします。

○ 年齢 () 歳

○ 性別 1. 男 2. 女

○ 患者様が最後の入院中のあなたの健康状態はいかがでしたか。

1. よかった 2. まあまあだった 3. よくなかった 4. 非常によくなかった

○ あなたは、患者様と、どのご関係にあたりますか。

1. 配偶者 2. 患者様の子供 3. 婿・嫁 4. 患者様の親 5. 兄弟姉妹 6. その他

○ 患者様が亡くなる前1週間に、どのくらい患者様と過ごされておりましたか。

1. 毎日ほとんどいっしょにいた 2. 一緒にないが毎日会っていた 3. 4~6日 4. 1~3日 5. 一緒にはいなかった

II. 患者様についておうかがいします。

○ 年齢 () 歳

○ 性別 1. 男 2. 女

○ ご病気は何でしたか？

1. 肺がん	2. 胃がん	3. 大腸がん	4. 直腸がん
5. 肝がん	6. 胆のう・胆管がん	7. 膵臓がん	8. 食道がん
9. 乳がん	10. 前立腺がん	11. 腎がん	12. 膀胱がん
13. 咽頭・喉頭がん	14. 子宮がん	15. 卵巣がん	16. 白血病
17. 悪性リンパ腫	18. 骨髄腫	19. 肉腫	20. 脳腫瘍
21. その他	22. わからない		

○ 亡くなられたときに受診していた医療機関で、治療を受けていた期間は、どのくらいですか？

1. 1週間未満 2. 1週間~ 3. 1ヶ月~ 4. 3ヶ月~

Ⅲ. 患者様の療養の場所についておうかがいします。

○ 最期の1ヶ月、患者様は、それぞれの場所でどれくらいすごされていましたか。

1. 自宅	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	3週間～
2. 病院	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	3週間～
3. ホスピス・緩和ケア病棟	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	3週間～
4. 老人ホームなど施設	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	3週間～
5. その他	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	3週間～

○ 最期の3カ月、患者様は、それぞれの場所でどれくらいすごされていましたか。

1. 自宅	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	1ヶ月～	2ヶ月～
2. 病院	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	1ヶ月～	2ヶ月～
3. ホスピス・緩和ケア病棟	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	1ヶ月～	2ヶ月～
4. 老人ホームなど施設	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	1ヶ月～	2ヶ月～
5. その他	なし	1週間未満	1週間～	2週間～	1ヶ月～	2ヶ月～

Ⅳ. 患者様は療養生活をどのようにお感じになられていたと思われますか。亡くなる前1ヶ月の状況について、それぞれ最も近い番号に○をおつけください。

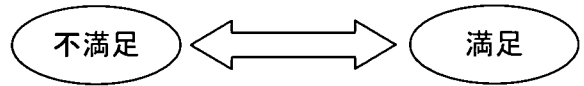
患者様は

- 痛みが少なく過ごせた・・・・・・・・
- からだの苦痛が少なく過ごせた・・・・・・・・
- おだやかな気持ちで過ごせた・・・・・・・・
- 望んだ場所で過ごせた・・・・・・・・
- 望んだ場所で最期を迎えられた・・・・・・・・
- 療養した場所は患者様の意向に沿っていた・
- 楽しみになるようなことがあった・・・・・・・・
- 医師を信頼していた・・・・・・・・
- 人に迷惑をかけてつらいと感じていた・・・・・・・・
- ご家族やご友人と十分に時間を過ごせた・
- 身の回りのことはたいてい自分でできた・
- 落ち着いた環境で過ごせた・・・・・・・・
- ひととして大切にされていた・・・・・・・・
- 充実した人生だと感じていた・・・・・・・・

思わない	全くそう	思わない	そう	あまり	どちらとも	いえない	そう思う	やや	そう思う	非常に
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				
1	2	3	4	5	6	7				

V. 患者様が、亡くなられたときに治療を受けていた医療機関での医療について、あなたの評価をおうかがいします。

以下に、患者様とご家族の生活をよりよいものにするために、必要と思われる項目を列挙しています。患者様が受けておられた医療を振り返ってみて、以下にお示しする内容について、まだ改善すべきところがあったかどうかについてお尋ねします。改善すべきところが、「全くない」から「大いにある」までのうち、最も近いものを1つだけ選び、○をおつけください。



[医師の対応について]

改善すべきところが

- 医師は、患者様のからだの苦痛をやわらげるように努めていた.....
- 医師は、患者様のつらい症状にすみやかに対処していた.....
- 医師は、苦痛をやわらげるのに必要な知識や技術に熟練していた.....

大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない

[看護師の対応について]

- 看護師は、患者様のつらい症状への対応の希望にすみやかに対応していた.....
- 看護師は、苦痛をやわらげるのに必要な知識や技術に熟練していた.....
- 看護師は、患者様の毎日の生活がなるべく快適になるように努めていた.....

大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない

[患者様への精神的な配慮について]

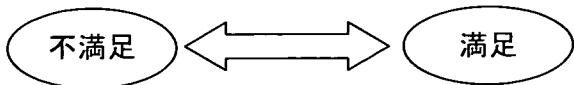
- 患者様の不安や心配をやわらげるように、医師や看護師は努めていた.....
- 患者様の気分が落ち込んだときに、医師や看護師は適切に対応していた.....
- 患者様の希望がかなえられるように、医師や看護師は努力していた.....

大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない

[医師から患者様への説明について]

- 医師は、患者様に、現在の病状や治療内容について十分説明した.....
- 医師は、患者様に、将来の見通しについて十分説明していた.....
- 医師は、治療の選択に患者様の希望が取り入れられるように配慮していた.....

大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない
大いにある	かなりある	ある	少しある	ほとんどない	全くない



[医師からご家族への説明について]

- 医師は、ご家族に、現在の病状や治療内容について十分説明した・・・・・・・・
- 医師は、ご家族に、将来の見通しについて十分説明していた・・・・・・・・
- 医師は、治療の選択にご家族の希望が取り入れられるように配慮していた・・・・・・・・

改善すべきところが

大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない
大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない
大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない

[ご家族への配慮について]

- ご家族が健康を維持できるような配慮があった・・・・・・・・
- ご家族が自分の時間をもったり、仕事を続けられるような配慮があった・・・・・・・・

大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない
大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない

[連携や継続性について]

- 医師や看護師など医療者どうしの連携はよかった・・・・・・・・
- 診療にあたる医師や看護師は固定していた・・・・・・・・
- 治療の場所がかわっても治療の方針や予定は、今までの病気の経過に十分配慮して立てられていた・・・・・・・・

大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない
大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない
大いに ある	かなり ある	ある	少し ある	ほとんど ない	全く ない

○ 全般的に受けられた医療には満足でしたか

非常に 不満足	不満足	やや 不満足	やや 満足	満足	非常に 満足
1	2	3	4	5	6

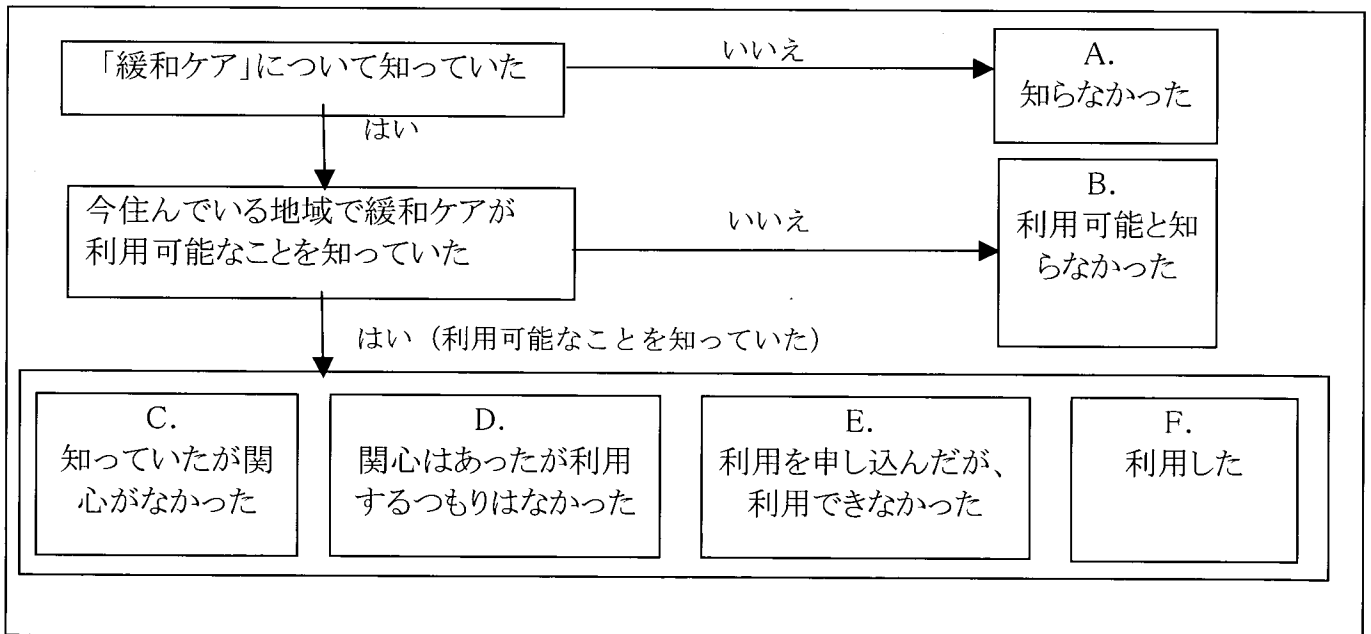
VI. 患者様への介護を振り返ってお考えください。あなたは、以下の項目について、どのように思われますか。それぞれ最も近い番号に○をおつけください。

	非常に 思わない	そう 思わない	そう 思わない あまり	どちらとも いえない	そう 思う	やや	そう 思う	非常に 思う
○ 自分の時間や予定が犠牲になった・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6	7	
○ 身体的な負担が大きかった・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6	7	
○ 精神的な負担が大きかった・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6	7	
○ 経済的な負担が大きかった・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6	7	

VII. あなたの介護経験から、この地域におけるがん治療についての「安心感」についてお
うかがいします。あなたのお考えに最も近いものに○をおつけください。

もし、がんになったとしても、この地域で	全く そう 思わない	そう 思わ ない	やや そう 思わ ない	ど ち ら だ も な い	や や さ う 思 う	さ う 思 う	と と も さ う 思 う
1 安心して治療を受けられる	1	2	3	4	5	6	7
2 あまり苦しくなく過ごせると思う	1	2	3	4	5	6	7
3 苦痛や心配には十分に対処してもらえと思う	1	2	3	4	5	6	7
4 いろいろなサービスがあるので安心だ	1	2	3	4	5	6	7
5 安心して自宅で療養できる	1	2	3	4	5	6	7
6 希望すれば、自宅で最期まで過ごすことも可能だ	1	2	3	4	5	6	7

VIII. 「緩和ケア」についてうかがいます。患者様の介護をされていたときのことについて、
あなたご自身がどう思われていたかをおうかがいします。最後にたどり着いたアルファベット
に○をおつけください。



IX. あなたが、現在、もっているイメージについておうかがいします。

	そう 思わない	そう 思わ ない あまり	ど ち ら と も 言 え な い	そう 思 う	と と も 思 う
緩和ケアは、 ○痛みや苦痛をやわらげる。・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○化学療法や放射線治療などがんに対する治療と一緒に。・・・・	1	2	3	4	5
○末期の患者さんのためのものである。・・・・・・・・	1	2	3	4	5
モルヒネなどの医療用麻薬は、 ○たいていの痛みを和らげることができる・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○麻薬中毒になったり、命を縮める・・・・・・・・	1	2	3	4	5
往診や訪問看護を使って自宅で療養することについて ○安心して過ごせる・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○病院と同じように苦痛をやわらげられることができる・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○急な変化があったときや夜間に対応できない・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○往診してくれる医師がいない・・・・・・・・	1	2	3	4	5
○家族への負担が大きい・・・・・・・・	1	2	3	4	5

X. あなたのご経験からがん治療や苦痛をやわらげる治療について、地域での改善点や課題につきまして、もしよろしければご助言やご示唆をご記入いただければ幸いです。

以上でアンケートは終了です。いただいたご意見は、地域の緩和ケアの向上に反映させていただきます。

ご協力、誠にありがとうございました。

医療者対象【介入地域用】

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」
ご協力のお願い

謹啓

春寒の候、貴方様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

このたび、厚生労働省補助金による第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班では、調査対象地域の医師・看護師の方を対象としたアンケート調査を行っております。

この調査は、地域を対象として2008年4月～2010年3月までのあいだに行われる「緩和ケアプログラム」の前後で、地域の医師・看護師の緩和ケアに関する困難感や自信がどのように変化するかを検討することを目的としております。今回のアンケートは、プログラムを行う前に（プログラムが行われた後）の状況をうかがうための調査です。

別紙に調査について詳しく説明がございますので、調査の趣旨をご一読いただき、ご協力いただけます方は、同封しておりますアンケート調査用紙にご記入いただき、病院の方は院内で定められた回収箱または回収袋にご投函いただけると幸いです。また、診療所および訪問看護ステーションの方は、同封いたしました返信用封筒にご記入されたアンケートを入れてご返送いただければと存じます。

ご多忙のところ、このようなお願いをすることをまことに恐縮しております。地域緩和ケアプログラムの評価のために重要な調査ですので、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、時節柄、貴方様にはくれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

敬白

平成20年2月

厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業

「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班

主任研究者：東海大学医学部

江口研二

地域責任者：〇〇病院

〇〇〇〇

（地域責任者名を入れる）

研究協力者：〇〇病院 〇〇科

〇〇〇〇

（施設の責任者名を入れる）

医療者対象【介入地域用】

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」
再度のご協力をお願い

謹啓

早春の候、貴方様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

この度、厚生労働省補助金・第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班では、調査対象地域の医師・看護師の方を対象としたアンケート調査を行っております。

すでに調査へのご回答をいただいた方々には厚く御礼を申し上げます。

このお手紙は、2月に調査のお願いをした全ての方にお送りしております。すでに調査へご回答いただいた方は、全く同一のもので、破棄していただいて結構です。まだご回答いただけていない方は、本依頼状をご一読いただき、ご協力いただけると幸いです。

この調査の目的は、医師・看護師の方々の緩和ケアに対する考え方をお尋ねし、それが地域緩和ケアプログラムの開始前後でどのように変化をするかを検討することです。

別紙に調査について詳しく説明がございますので、調査の趣旨をご一読いただき、ご協力いただけます方は、同封しておりますアンケート調査用紙にご記入いただき、病院の方は院内で定められた回収箱または回収袋にご投函いただくと幸いです。また、診療所および訪問看護ステーションの方は、同封いたしました返信用封筒にご記入されたアンケートを入れてご返送いただくと幸甚です。

ご多忙のところ、このようなお願いをすることをまことに恐縮しております。地域緩和ケアプログラムの評価のために重要な調査ですので、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、時節柄、貴方様にはくれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

敬白

平成20年3月

厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業

「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班

主任研究者：東海大学医学部

江口研二

地域責任者：〇〇病院

〇〇〇〇

(地域責任者名を入れる)

研究協力者：〇〇病院 〇〇科

〇〇〇〇

(施設の責任者名を入れる)

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」

調査の趣旨

【調査の目的】

この調査は、2008年4月～2010年3月までのあいだに行われる「緩和ケアプログラム」という取り組みの前後にがん医療に携わる医師・看護師の方々の緩和ケアに対するお考えを調査し、この取り組みが地域にとって有効であるかを検討することを目的にしています。今回は、プログラムを行う前に（プログラムが行われた後）の状況をうかがうための調査です。

「緩和ケアプログラム」とは、患者様の苦痛や自宅を含めて患者様の希望する療養場所で安心して過ごせることを推進するプログラムで、〇〇市全域を対象として、医師や看護師を対象に講習会を行ったり、患者様・ご家族を対象に情報提供を行ったりいたします。

【対象となる方】

〇〇地域の病院、診療所、訪問看護ステーションでがん医療に携わる医師・看護師の方にご協力をお願いしております。

【調査の方法】

調査方法は無記名のアンケート調査です。アンケートの記入には20分程度を要します。同封しておりますアンケート用紙にご記入いただき、無記名で、ご返送をお願い申し上げます。アンケートをお受け取りになられてから1カ月以内にご投函いただければ幸いです。

病院の方は病院で定めた回収箱・回収袋にご投函ください。

診療所・訪問看護ステーションの方は同封した返信用封筒にアンケートを入れてご返送ください。

【プライバシーの保護】

このアンケートは無記名になっております。個人の氏名が調査協力者や調査事務局に知られることはありません。病院の場合でも病院職員がアンケートの内容を直接見ることはありません。アンケートの結果は「こういう意見が〇%ある」といったように、事務局が数量的に集計して発表するので、個人の特定ができず、個人の情報が公表されることは一切ありません。また、アンケートはこの調査の目的以外で使用されることはありません。

【調査による負担】

この調査は、参加される方々の人権が守られるように慎重に検討し、本研究班のために組織いたしました倫理委員会の承認を得て実施しております。アンケートは無記名ですので、アンケートの回答が業務上の不利益となることは一切ありません。

【お問い合わせ先（調査事務局）】

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 緩和ケア看護学分野

連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5841-3507 FAX：03-5841-3502 E-mail：palliative-office@umin.ac.jp

担当：宮下光令、深堀浩樹（月～金：10時～16時）

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」
ご協力のお願い

春寒の候、貴方様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

このたび、厚生労働省補助金による第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班では、調査対象地域の医師・看護師の方を対象としたアンケート調査を行っております。

この調査は、地域の医師・看護師の緩和ケアに関する困難感や自信を調査し、地域の関係する医療従事者の方にお伝えすることによって改善点を検討するとともに、「緩和ケアプログラム」をおこなっています他の地域と比較することを目的としております。

別紙に調査について詳しく説明がございますので、調査の趣旨をご一読いただき、ご協力いただけます方は、同封しておりますアンケート調査用紙にご記入いただき、病院の方は院内で定められた回収箱または回収袋にご投函いただけると幸いです。また、診療所および訪問看護ステーションの方は、同封いたしました返信用封筒にご記入されたアンケートを入れてご返送いただければと存じます。

ご多忙のところ、このようなお願いをすることをまことに恐縮しております。地域における緩和ケアの質向上のために重要な調査ですので、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、時節柄、貴方様にはくれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

敬白

平成20年2月

厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業

「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班

主任研究者：東海大学医学部

江口研二

地域責任者：〇〇病院

〇〇〇〇

(地域責任者名を入れる)

研究協力者：〇〇病院 〇〇科

〇〇〇〇

(施設の責任者名を入れる)

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」
再度のご協力をお願い

謹啓

早春の候、貴方様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

この度、厚生労働省補助金・第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班では、調査対象地域の医師・看護師の方を対象としたアンケート調査を行っております。

すでに調査へのご回答をいただいた方々には厚く御礼を申し上げます。

このお手紙は、2月に調査のお願いをした全ての方にお送りしております。すでに調査へご回答いただいた方は、全く同一のもので、破棄していただいて結構です。まだご回答いただけていない方は、本依頼状をご一読いただき、ご協力いただけると幸いです。

この調査は、地域の医師・看護師の緩和ケアに関する困難感や自信を調査し、地域の関係する医療従事者の方にお伝えすることによって改善点を検討するとともに、「緩和ケアプログラム」をおこなっています他の地域と比較することを目的としております。別紙に調査について詳しく説明がございますので、調査の趣旨をご一読いただき、ご協力いただけます方は、同封しておりますアンケート調査用紙にご記入いただき、病院の方は院内で定められた回収箱または回収袋にご投函いただくと幸いです。また、診療所および訪問看護ステーションの方は、同封いたしました返信用封筒にご記入されたアンケートを入れてご返送いただくと幸甚です。

ご多忙のところ、このようなお願いをすることをまことに恐縮しております。地域における緩和ケアの質向上ために重要な調査ですので、何卒ご協力賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

末筆ではございますが、時節柄、貴方様にはくれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

敬白

平成20年3月

厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業
「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班

主任研究者：東海大学医学部

江口研二

地域責任者：〇〇病院

〇〇〇〇

(地域責任者名を入れる)

研究協力者：〇〇病院 〇〇科

〇〇〇〇

(施設の責任者名を入れる)

医療者対象【対照地域用】

「がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査」

調査の趣旨

【調査の目的】

この調査は、がん医療に携わる医師・看護師の方々の緩和ケアに対するお考えを調査し、地域の方々にお伝えすることによって改善点を検討するとともに「緩和ケアプログラム」をおこなっています他の地域と比較することを目的としております。

「緩和ケアプログラム」とは、患者様の苦痛の緩和や、患者様の希望する療養場所で安心して過ごせることを推進するプログラムで、全国の4地域で行われます。この地域は、プログラムを実施する地域にはなっておりませんが、今回の調査結果を地域の医療従事者の方々にお送りすることで改善策を検討することに役立つと思われれます。

【対象となる方】

〇〇地域の病院、診療所、訪問看護ステーションでがん医療に携わる医師・看護師の方にご協力をお願いしております。

【調査の方法】

調査方法は無記名のアンケート調査です。アンケートの記入には20分程度を要します。同封しておりますアンケート用紙にご記入いただき、無記名で、ご返送をお願い申し上げます。アンケートをお受け取りになられてから1カ月以内にご投函いただければ幸いです。

病院の方は病院で定めた回収箱・回収袋にご投函ください。

診療所・訪問看護ステーションの方は同封した返信用封筒にアンケートを入れてご返送ください。

【プライバシーの保護】

このアンケートは無記名になっております。個人の氏名が調査協力者や調査事務局に知られることはありません。病院の場合でも病院職員がアンケートの内容を直接見ることはありません。アンケートの結果は「こういう意見が〇%ある」といったように、事務局が数量的に集計して発表するので、個人の特長ができず、個人の情報が公表されることは一切ありません。また、アンケートはこの調査の目的以外で使用されることはありません。

【調査による負担】

この調査は、参加される方々の人権が守られるように慎重に検討し、本研究班のために組織いたしました倫理委員会の承認を得て実施しております。アンケートは無記名ですので、アンケートの回答が業務上の不利益となることは一切ありません。

【お問い合わせ先（調査事務局）】

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 緩和ケア看護学分野

連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5841-3507 FAX：03-5841-3502 E-mail：palliative-office@umin.ac.jp

担当：宮下光令、深堀浩樹（月～金：10時～16時）

がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査（案）

<アンケートの回答方法>

- ◆ このアンケートでは、緩和ケアについてお伺いします。アンケートは、がん緩和ケアについて伺うⅠ～Ⅵの質問から構成されています。選択式の設問は、それぞれ最も当てはまると思われる番号に○をおつけください。

アンケートの記入例

	全く 思わない	そう 思わない	どちら も いえない	そう 思う	全く 思う
緩和ケアについての自信とトレーニングについて					
○疼痛の緩和のための知識や技術は十分である。・・・	1	2	3	4	5
○疼痛以外の身体症状の緩和のための知識や技術は十分である。・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5

- ◆ 本調査における「緩和ケア」とは、「がん」に直面した患者とその家族に対して、終末期に限らず、「がん」と診断されたときから、痛みや他の身体的症状、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に対する予防、評価、治療をすることで、クオリティー・オブ・ライフ(生活の質)を改善させるケアと定義します。
- ◆ 調査結果は統計的な処理をして公表されるため、個人の情報が公開されることは一切ありません。また、アンケートは厳封された状態で回収し、調査施設から独立した事務局にて開封後、分析されるため、調査施設の職員が個人の調査結果を直接知ることはありません。

I. 最初に、あなたご自身についてお伺いします。それぞれ該当する番号に一つ〇をおつけください。

- 性別

1. 男	2. 女
------	------

- 年齢

1. ~29歳	2. 30~39歳	3. 40~49歳	4. 50~59歳	5. 60歳~
---------	-----------	-----------	-----------	---------

- 現在所属している診療科はどちらですか

1. 一般病棟	2. 緩和ケア病棟	3. 外来	4. 訪問看護ステーション	5. その他
---------	-----------	-------	---------------	--------

- 現在の職位をお選びください

1. 師長(所属長)	2. 副師長・主任等	3. スタッフ
------------	------------	---------

- 臨床経験年数はどのくらいですか

1. ~4年	2. 5~9年	3. 10~14年	4. 15~19年	5. 20年~
--------	---------	-----------	-----------	---------

- ホスピスまたは緩和ケア病棟の経験年数はどのくらいですか

1. なし	2. ~4年	3. 5~9年	4. 10~14年	5. 15年~
-------	--------	---------	-----------	---------

- 終末期がん患者のケアを何人くらい経験されたことがありますか

①今までに経験された合計人数

1. なし	2. 1~9人	3. 10~49人	4. 50~99人	5. 100人~
-------	---------	-----------	-----------	----------

②過去1年間に経験された人数

1. なし	2. 1~9人	3. 10~49人	4. 50~99人	5. 100人~
-------	---------	-----------	-----------	----------

- がん患者のケアを何人くらい経験されたことがありますか

①今までに経験された合計人数

1. なし	2. 1~9人	3. 10~49人	4. 50~99人	5. 100人~
-------	---------	-----------	-----------	----------

②過去1年間に経験された人数

1. なし	2. 1~9人	3. 10~49人	4. 50~99人	5. 100人~
-------	---------	-----------	-----------	----------

- 看護師免許取得のための教育はどこで受けられましたか

1. 専門学校	2. 短大	3. 大学以上	4. その他
---------	-------	---------	--------

- 緩和ケアに関して、看護学校・短大・看護学校で教育を受けた時間はどのくらいですか

1. なし	2. 1時間以内	3. 2~5時間	4. 5時間以上
-------	----------	----------	----------

- 緩和ケアに関して、看護師になられてから教育を受けた時間はどのくらいですか

1. なし	2. 1時間以内	3. 2~5時間	4. 5時間以上
-------	----------	----------	----------

- 緩和ケアに関して、所属施設外で特別な講習を受けた回数はこのくらいですか

1. なし	2. 1回	3. 2~5回	4. 5回以上
-------	-------	---------	---------

II あなたのがん患者の緩和ケア（疼痛などの身体的な苦痛の緩和、精神的サポート）に関する意識についてお尋ねします。以下の項目から最も近いものを1つ選んで○をおつけください。

	全く 思わない	そう 思わない	どちら とも いえ ない	そう 思う	全く そう 思う
緩和ケアについての自信とトレーニングについて					
○疼痛の緩和のための知識や技術は十分である。・・・	1	2	3	4	5
○疼痛以外の身体症状の緩和のための知識や技術は十分である。・・・	1	2	3	4	5
○がんに関連した身体症状の緩和手段についての必要なトレーニングを受けた。・・・	1	2	3	4	5
○向精神薬や精神療法（カウンセリング）に関する知識や技術は十分である。	1	2	3	4	5
○がん患者の不安やうつ状態をおおむね正しく評価できる。・・・	1	2	3	4	5
専門家からの支援について					
○身体症状の緩和に関して専門的な知識や援助が容易に得られる。・・・	1	2	3	4	5
○がん患者のこころの問題に関して専門的な知識や援助が容易に得られる。・・・	1	2	3	4	5

III

○あなたは世界保健機関（WHO）が作成した「WHO方式癌疼痛治療法」をご存知ですか。

- | | | |
|---------------|-----------------|---------------|
| 1. 内容をよく知っている | 2. 内容を有る程度知っている | 3. あることを知っている |
| 4. 知らない | | |

○あなたは、モルヒネなどの医療用麻薬の使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 1. 説明できる | 2. 多少は説明できる | 3. 説明できない |
| 4. その他（ | ） | 5. わからない |

IV. あなたが、普段、がん患者に対して行っていることについてお伺いします。
それぞれ当てはまる番号に一つ○をおつけください。

全く行っていない	あまり行っていない	時々行っている	いつも行っている
----------	-----------	---------	----------

【全般的なケア】

- 患者・家族が、何を希望しているか、知ろうとしている
- 患者・家族にとって大切なことは何か、知ろうとしている
- 患者のつらさについて少しでもわかろうとしている

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【疼痛に対するケア】

- 痛み止めの臨時薬を使用した後は、効果を記載している
- どんな時に疼痛が出現したのか、状況を記載している
- 患者の疼痛を評価するため、患者に直接痛みの強さをきいている

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【呼吸困難に対するケア】

- 患者の息苦しさを評価するため、患者に直接息苦しさをきいている
- 息苦しさを訴える患者に対して、そばにいる・背中をゆっくりさするなど、安心感を増すようなケアをしている
- どんな時に息苦しくなるのか、状況を記載している

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【せん妄に対するケア】

- 時計・カレンダーを置くなど、せん妄の予防・改善のケアをしている
- 患者がせん妄になったとき、家族がどう思っているか、聞いている
- せん妄症状を悪化させる不快なこと（尿意・便意・疼痛・不安など）がないか、評価している

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【消化器症状に対するケア】

- 患者の食事摂取量が低下したとき、患者・家族がそれについてどう思っているか、聞いている
- 輸液治療について、患者の希望や価値観を確かめている
- 口腔内の様子を定期的に観察して、清潔にしている

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【患者・家族とのコミュニケーション】

- 患者・家族と重要な話をする時、静かでプライバシーのある場所で話すことを心がけている
- 患者・家族が正しく病状の理解が出来るよう、患者・家族の理解度について確認している
- 患者に質問をするとき、「痛いですか」のような「はい・いいえ」で答える質問ではなく、「何かご心配はありますか」のような自由に回答できる質問にしている

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【死が近づいたときのケア】

- 死が近づいてきたとき、患者の身体的な苦痛の程度を、定期的に評価している
- 死が近づいてきたとき、頻回に吸引や体位交換が行われている場合は、それらを続けることが適当かを検討している
- 死が近づいてきたとき、家族にどんな心配を抱いているか、定期的に聞いている

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

V. あなたが、普段、がん患者に対して行っているケア・診療を振り返り、以下のような難しさをどのくらいお感じになりますか。それぞれ最も近い番号に一つ〇をおつけください。

全くない	まれにある	時々ある	非常にある
------	-------	------	-------

【痛み】

- がん性疼痛に関する知識が不足している
- 痛みの評価尺度・アセスメントツールを使えない、または、知らない
- 医療用麻薬の副作用の対応が難しい

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【患者とのコミュニケーション】

- 患者から、病気が進行した場合の話題を出されたとき、対応が難しい
- 患者が悪い知らせ（告知など）を受けた後、声のかけ方が難しい
- 患者から、不安を表出されたとき、対応が難しい

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【医師とのコミュニケーション】

- 医師と看護師の間で、症状緩和のための一貫した目標がない
- 医師・看護師間で、症状に対する評価（アセスメント）方法が一致していない
- 医師・看護師間で、症状緩和に関するコミュニケーションをとることが難しい

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【地域連携】

- 病院、診療所、訪問看護ステーション間で、情報共有が難しい
- がん患者の在宅ケアに関する情報を得ることが難しい
- 在宅療養中のがん患者の症状をやわらげたいとき、いつでも相談できる場所がない

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

【専門家の支援体制】

- 疼痛などの症状緩和に関して、相談できる専門家がない
- 疼痛などの症状緩和に関して、専門家から支援を得ることが難しい
- がん患者のこころの問題に関して、こころの専門家から支援を得ることが難しい

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

VI. がん患者の緩和ケアに関する知識についてお伺いします。下記の項目について、「正しい」か「間違っている」または「わからない」のいずれかに、それぞれ一つ〇をおつけください。

正しい	間違っている	わからない
-----	--------	-------

【理念について】

- 緩和ケアの対象は、終末期の患者のみである
- 緩和ケアは、がんに対する治療と一緒にには行わない
- 緩和ケアを受ける患者は、死を受容しなければならない

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【疼痛について】

- がん性疼痛が軽度の場合、医療用麻薬よりもペンタゾシン（ペンタジン[®]・ソセゴン[®]）を積極的に使用すべきである
- 医療用麻薬を使用するようになったら、非ステロイド性抗炎症鎮痛剤（NSAIDs、ロキソニン[®]、ボルタレン[®]等）は、同時に使用しない
- がん性疼痛の緩和には、抗うつ剤や抗てんかん薬が有効な場合がある

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【医療用麻薬の副作用について】

- 医療用麻薬を長期間使用すると、薬物中毒がしばしば生じる
- 医療用麻薬は、副作用として呼吸抑制が生じるため、できる限り増量しない
- 医療用麻薬の使用は、患者の生命予後に影響しない

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【呼吸困難について】

- 患者の呼吸困難はモルヒネでやわらげられる
- 定期的に医療用麻薬を使用している場合、呼吸困難をやわらげるために医療用麻薬を追加すると、呼吸抑制が起こりやすい
- 患者の息苦しさ酸素飽和度は比例する

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【せん妄について】

- 死亡直前では、電解質異常や脱水を補正しないほうが、苦痛が少なくなることがある
- 終末期がん患者のせん妄は、モルヒネが単独の原因となっていることが多い
- せん妄は精神的に弱い人になりやすい

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【消化器症状について】

- 消化器閉塞による消化器症状の緩和には、胃管の挿入が必須である
- がんに伴う経口摂取の低下には、輸液治療のほかには有効な手段がない
- 1日に1000mL以上輸液している患者では、胸水や腹水が増悪する傾向がある

1	2	3
1	2	3
1	2	3

【コミュニケーションについて】

- 日本人の90%以上は、予後も含めて全ての悪い情報を知りたいと考えている
- 上手にコミュニケーションできる能力は、トレーニングによって身につけられる
- 患者や家族が、どのくらい情報を知り、意思決定に関わりたいかは、時間の経過や病状によって変化する

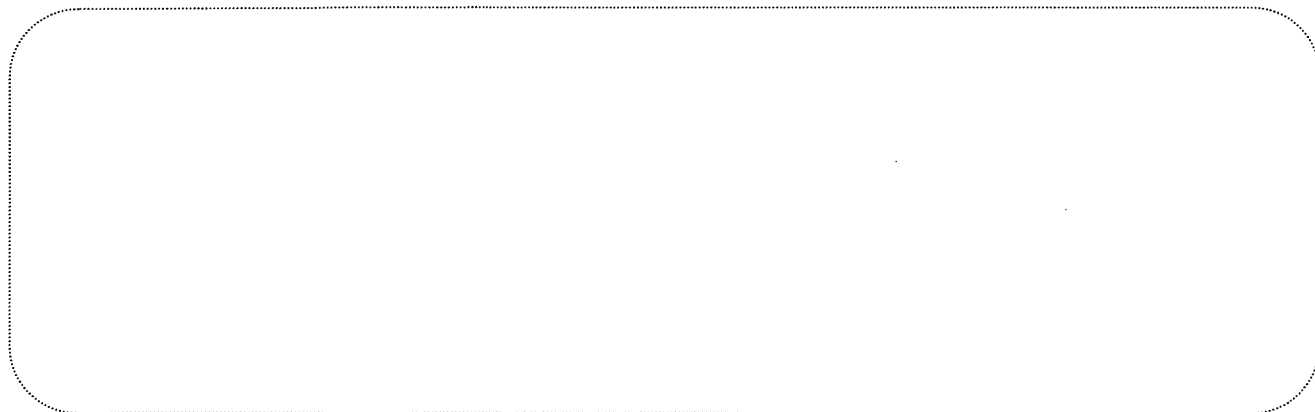
1	2	3
1	2	3
1	2	3

【看取りのケアについて】

- 死亡直前に痰がのどもとでゴロゴロいうとき、吸引以外の対処方法はない
- 死亡直前に症状をやわらげる方法が、鎮静（持続的に鎮静薬を投与すること）しかない患者がいる
- 死が近い時期にある患者の口渇は、輸液でやわらげることができない

1	2	3
1	2	3
1	2	3

地域のがん患者に対する緩和ケアにつきまして、何かご意見があればご記入いただけますと幸いです。



以上でアンケートは終了です。いただいたご意見は、地域の緩和ケアの向上に反映させていただきます。

ご協力、誠にありがとうございました。

がん患者への緩和ケアについてのアンケート調査（案）

<アンケートの回答方法>

- ◆ このアンケートでは、緩和ケア（苦痛をやわらげるための治療）についてお伺いします。選択式の設定は、それぞれ最も当てはまると思われる番号に○をおつけください。
- ◆ 調査結果は統計的な処理をして公表されるため、個人の情報が公開されることは一切ありません。また、アンケートは厳封された状態で回収し、調査施設から独立した事務局にて開封後、分析されるため、調査施設の職員が個人の調査結果を直接知ることはありません。

I 最初にあなたご自身についておうかがいします。

1. 年齢 () 歳

2. 性別 1. 男 2. 女

3. 専門科

1 : 内科・消化器科・呼吸器科 2 : 外科・呼吸器外科 3 : 産婦人科
4 : 泌尿器科 5 : 他 ()

4. 勤務されている医療機関をお答えください

1. がん診療連携拠点病院 2. ～200床までの病院
3. 200床以上の病院
4. 在宅支援診療所 5. 在宅支援診療所以外の診療所

5. 医療に従事している期間をお答えください。

() 年

6. 過去1年間に主に受け持ったがん患者数はおよそ何人かお答えください。

1. 0人 2. 1-10人 3. 11-50人 4. 51人以上

7. 過去1年間に看取ったがん患者数はおよそ何人かお答えください。

1. 0人 2. 1-10人 3. 11-50人 4. 51人以上

8. 1年間に医療用麻薬を処方する実患者数をお教えてください

1. 0人（麻薬取り扱い番号取得なし） 2. 0人（麻薬取り扱い番号取得あり）
3. 1-10人 4. 11-50人 5. 51人以上